

平成 30 年 12 月 小竹図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 30 年 12 月 21 日（金） 15 時 30 分から 16 時 10 分まで
場所	光が丘図書館 第一会議室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館（以下「光」） 管理係長、運営調整係長・係員（3）、事業統括係長 光が丘図書館長、子供事業統括係長は欠席</p> <p>(2) 小竹図書館指定管理者（ハートフルサポート共同事業体）（以下「小」） 小竹図書館長、本社スタッフ（3）</p>
内容	<p>施設管理について</p> <p>（光）冬季期間中の大雪対策について</p> <p>（小）雪かき用の道具の準備をしている。また、大雪が降ることが予想される日には近隣に住むスタッフを朝のシフトにしたり、男性スタッフを増やすなど対応をする。開館前はスタッフと清掃スタッフで雪かきを行い、ポスターを貼るなどして滑らないよう注意喚起を行う。</p> <p>職員体制について</p> <p>（光）接客スキル向上に向けての取組について</p> <p>（小）本社としては、特にマナー研修に力を入れている。（株）五十嵐商会社社長が民間企業のマナー研修講師をしていた経験を生かし、講師となって図書館でも通じるところを取り入れている。研修前に館長と打合せをし、最近の対応事例で困ったことを共有し、実際の現場でどのように対応したらよいのか、ロールプレイングを交えた実践的な研修を行っている。</p> <p>一般事業について</p> <p>（光）11 月実施の「布の絵本 製作講習会」について</p> <p>（小）練馬 En カレッジの一環として、ボランティア団体「ドレミ文庫」との協働で実施した。全 4 回コースで、受講が終わった後は、実際に布の絵本製作ボランティアに入ってもらい続けて活動することができる。ボランティア活動の周知ができたと同時に、参加された方からは楽しかったというお声もいただくことができた。</p> <p>（光）11 月実施の「本のリサイクルフェア」について</p> <p>（小）売買目的禁止の掲示を出し、スタッフを常に配置して来館者数をカウントしていた。本のリサイクルは、小竹図書館に指定管理者制度が導入されてから初めての実施となった。利用者懇談会で宣伝していたこともあり、当日は一般の利用者や近隣の幼稚園の先生など多くの方に来ていただけた。</p> <p>（光）11 月実施の「藤田嗣治と小竹町」について</p> <p>（小）今年、没後 50 年を記念した事業を図書館で実施したいと考えていた時期に、町会から藤田嗣治の本を執筆している方をご紹介いただき、講師をしていただいた。募集をかけるとすぐに定員に達し、キャンセル待ちもいっぱいになるほど盛況であった。当日の</p>

講座で使用するために、ふるさと文化館分室から当時の写真をお借りするなど、地域施設からの協力もいただいた。

（光）藤田嗣治の書籍は小竹図書館の蔵書にあるか。

（小）ある。小竹町にゆかりのある人物であり、また、今年は東京都美術館で回顧展を行うことが分かっていたので、貸出しが増えることを予想して、ここ数年意識して収集をしていた。

児童・青少年サービス事業について

（光）11月実施の「リス君のどんぐり集めゲームをつくろう」について

（小）お菓子の空箱を使ったゲーム盤を作り、どんぐりやリスに色を塗って工作を行った。工作会は毎回参加者が多く、リピーターの子供もいる。対象は小学生としているが、参加者は小学校4年生までの子供がほとんどで高学年の参加者はほぼいない。また、子供が工作会に参加している間、親御さんは館内で本を選ぶことができるため、親子で来館される方が多かった。

（光）秋の読書旬間での支援・取組内容について

（小）小学校を中心に、読書旬間にブックトークやアニメーションなどを行った。小学校は全体的に図書館の活用に積極的な印象があるが、中学校では温度差があると感じている。レファレンス件数を見ても、小学校に比べ中学校のレファレンスが少なかった。

その他

（光）10月開催の「利用者懇談会」について

（小）参加者は一般利用者やボランティアの方など、昨年より多い18名の方に来ていただけた。出た意見としては、専門書を充実してほしい、事業の宣伝をもっとしてほしい、マスコットキャラクターがあると良い、かみしばいの展示があると良いなど様々な声をいただいた。検討したうえで取り入れられることがあれば実施したいと思う。

（光）11月実施の「利用者アンケート」では総合的な満足度が90%を超えていた。何か特別な取組をしているか。

（小）図書館としては、何度でも来たくなるような環境作りと接客を心掛けている。今回の結果については非常にありがたいと思っている。指定管理導入当初に比べ、今では本を借りるついでに窓口でおしゃべりをして帰る利用者の方がいるなど、年を経るごとに、利用者の方に親しみやすい図書館になっていると感じている。